

CA ARCserve® Backup for Windows

リリース サマリ

r15



本書及び関連するソフトウェア ヘルプ プログラム(以下「本書」と総称)は、ユーザへの情報提供のみを目的とし、CA はその内容を予告なく変更、撤回することがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複製、譲渡、複製、開示、修正、複製することはできません。本書は、CA または CA Inc. が権利を有する秘密情報であり、かつ財産的価値のある情報です。ユーザは本書を開示したり、CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に使用することはできません。

上記にかかわらず、本書に記載されているソフトウェア製品に関連して社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、該当するソフトウェアのライセンスを受けたユーザは、合理的な範囲内の部数の本書の複製を作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を各複製に添付することを条件とします。

本書のコピーを作成する上記の権利は、ソフトウェアの該当するライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザは CA に本書の全部または一部を複製したコピーをすべて CA に返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CA は本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本書の使用に起因し、逸失利益、投資の喪失、業務の中断、営業権の損失、データの損失を含むがそれに限らない、直接または間接のいかなる損害が発生しても、CA はユーザまたは第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、該当するライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者は CA および CA Inc. です。

「制限された権利」のもとでの提供:アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2010 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての商標、商号、サービスマークおよびロゴは、それぞれ各社に帰属します。

CA 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA の製品は以下のとおりです。

- BrightStor® Enterprise Backup
- CA Antivirus
- CA ARCserve® Assured Recovery™
- CA ARCserve® Backup Agent for Advantage™ Ingres®
- CA ARCserve® Backup Agent for Novell Open Enterprise Server for Linux
- CA ARCserve® Backup Agent for Open Files on NetWare
- CA ARCserve® Backup Agent for Open Files on Windows
- CA ARCserve® Backup Client Agent for FreeBSD
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Linux
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Mainframe Linux
- CA ARCserve® Backup Client Agent for NetWare
- CA ARCserve® Backup Client Agent for UNIX
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Windows
- CA ARCserve® Backup Enterprise Option for AS/400
- CA ARCserve® Backup Enterprise Option for Open VMS
- CA ARCserve® Backup for Microsoft Windows Essential Business Server
- CA ARCserve® Backup for Windows
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for IBM Informix
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Lotus Domino
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft Exchange Server
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft SharePoint Server
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft SQL Server
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Sybase
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Virtual Machines
- CA ARCserve® Backup for Windows Disaster Recovery Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Module

- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for IBM 3494
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for StorageTek ACSLS
- CA ARCserve® Backup for Windows Image Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Microsoft Volume Shadow Copy Service
- CA ARCserve® Backup for Windows NDMP NAS Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Serverless Backup Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Storage Area Network (SAN) Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Tape Library Option
- CA ARCserve® Backup Patch Manager
- CA ARCserve® Backup UNIX/Linux Data Mover
- CA ARCserve® D2D
- CA ARCserve® High Availability
- CA ARCserve® Replication
- CA VM:Tape for z/VM
- CA 1® Tape Management
- Common Services™
- eTrust® Firewall
- Unicenter® Network and Systems Management
- Unicenter® Software Delivery
- Unicenter® VM:Operator®

CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: 新機能および拡張機能	7
Microsoft SharePoint バックアップ イメージの詳細リストア	8
システム状態バックアップからの Active Directory 項目のオブジェクト レベル リストア	8
UNIX/Linux Data Mover	8
Microsoft Exchange Server 2010 のエージェント サポート	9
Microsoft SharePoint 2010 のエージェント サポート	9
ストレージ リソース管理 (SRM) 拡張機能	10
raw バックアップおよびリストア	10
Dashboard	10
Global Dashboard	10
新規 Dashboard レポート	11
CA ARCserve Patch Manager 機能と CA ARCserve Backup の統合	12
IBM Informix 11.5 のエージェント サポート	12
Lotus Domino Server 8.5 のエージェント サポート	12
Microsoft SQL Server 2008 のエージェント サポート	12
セントラル ジョブ キュー管理	13
一元化されたライセンス登録	13
CA Antivirus メンテナンスの機能拡張	13
カタログ DB の機能拡張	13
デデュープリケーション拡張機能	14
グローバル再利用セットのデフォルトでの有効化	14
Infrastructure Visualization	14
SKM (Secure Key Management) との統合	15
メークアップ ジョブ	15
x64 プラットフォーム上での NLO/VLO サポート	15
物理マシンから Hyper-V マシンへの惨事復旧のサポート	15
CA ARCserve データベース回復ウィザードを使用した CA ARCserve Backup データベースの回復	16
CA ARCserve Backup デフォルト データベースとしての Microsoft SQL Server 2008 Express Edition	16
ディスクおよびテープ ステージング バックアップの週単位のマイグレーション ポリシー	16
第 2 章: 利便性の向上	17
CA ARCserve Backup マネージャの機能拡張	17
セントラル エージェント管理	18
データベース パス	18
ディスク ベース デバイス環境設定	18

動的にパッケージされるジョブからの項目の除外	19
グループ ビュー	19
ウィザード形式のバックアップ マネージャ	20
診断に関する拡張機能	20
CA ARCserve D2D との統合	21
ライセンス登録	22
セットアップと展開	23
静的バックアップ	23
マニュアルの変更点	24
第 3 章: 解決されたユーザ リクエスト	25
CA ARCserve Backup 読み取り専用ドメイン コントローラ上のインストール サポート	25
メディアの比較操作	25
メール スロットからのテープのインポート	25
第 4 章: サポートされない機能	27
このリリースでサポートされない機能	27

第 1 章：新機能および拡張機能

このリリース サマリでは、CA ARCserve Backup r15 の新機能、拡張機能、および利便性の向上について説明します。この章では、この製品リリースで追加された新機能と機能拡張について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Microsoft SharePoint バックアップ イメージの詳細リストア \(8 ページ\)](#)

[システム状態バックアップからの Active Directory 項目のオブジェクト レベル リストア \(8 ページ\)](#)

[UNIX/Linux Data Mover \(8 ページ\)](#)

[Microsoft Exchange Server 2010 のエージェント サポート \(9 ページ\)](#)

[Microsoft SharePoint 2010 のエージェント サポート \(9 ページ\)](#)

[ストレージ リソース管理 \(SRM\) 拡張機能 \(10 ページ\)](#)

[raw バックアップおよびリストア \(10 ページ\)](#)

[Dashboard \(10 ページ\)](#)

[CA ARCserve Patch Manager 機能と CA ARCserve Backup の統合 \(12 ページ\)](#)

[IBM Informix 11.5 のエージェント サポート \(12 ページ\)](#)

[Lotus Domino Server 8.5 のエージェント サポート \(12 ページ\)](#)

[Microsoft SQL Server 2008 のエージェント サポート \(12 ページ\)](#)

[セントラル ジョブ キュー管理 \(13 ページ\)](#)

[一元化されたライセンス登録 \(13 ページ\)](#)

[CA Antivirus メンテナンスの機能拡張 \(13 ページ\)](#)

[カタログ DB の機能拡張 \(13 ページ\)](#)

[デデュープリケーション拡張機能 \(14 ページ\)](#)

[グローバル再利用セットのデフォルトでの有効化 \(14 ページ\)](#)

[Infrastructure Visualization \(14 ページ\)](#)

[SKM \(Secure Key Management\) との統合 \(15 ページ\)](#)

[メークアップ ジョブ \(15 ページ\)](#)

[x64 プラットフォーム上での NLO/VLO サポート \(15 ページ\)](#)

[物理マシンから Hyper-V マシンへの惨事復旧のサポート \(15 ページ\)](#)

[CA ARCserve データベース回復ウィザードを使用した CA ARCserve Backup データベースの回復 \(16 ページ\)](#)

[CA ARCserve Backup デフォルト データベースとしての Microsoft SQL Server 2008 Express Edition \(16 ページ\)](#)

[ディスクおよびテープ ステージング バックアップの週単位のマイグレーション ポリシー \(16 ページ\)](#)

Microsoft SharePoint バックアップ イメージの詳細リストア

CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server では、Microsoft SharePoint のデータベース レベル バックアップ イメージからの詳細リストアを実行できます。つまり、Microsoft SharePoint 環境内でファイル、サイトおよびサブサイトを個別にリストアし、素早く回復できるようになります。また、環境全体のリストアや、単一パスのファーム レベルのフル バックアップを使用した全種類のリストアを実行できます。

注: この機能は、Microsoft SharePoint 2007 以降のバージョンで有効です。

システム状態バックアップからの Active Directory 項目のオブジェクト レベル リストア

この CA ARCserve Backup のリリースでは、Active Directory のコンピュータ ユーザ、グループ、プリンタ、およびコンピュータ ネットワーク環境設定データに関する静的な情報を、システム状態バックアップからリストアできます。CA ARCserve Backup では、Active Directory をコンピュータのシステム状態の一部として バックアップできます。Active Directory の個々のオブジェクトは、1 つのシステム状態のフル バックアップから、Windows Server 2003 および Windows Server 2008 システム上にリストアされます。

UNIX/Linux Data Mover

この CA ARCserve Backup のリリースには、UNIX/Linux のファイル システム データ および Oracle データを保護する新規の UNIX/Linux Data Mover が含まれています。ローカルからアクセス可能なディスクおよびテープ デバイス(ライブラリ)にデータを保存し、Data Mover サーバと SAN 環境の CA ARCserve Backup プライマリ サーバ間で共有させることができます。ローカルからアクセス可能なディスクおよび SAN 環境の共有テープ デバイスを使用することにより、ネットワーク トラフィックを減らし、バックアップとリストアのウィンドウを最小化できます。

Microsoft Exchange Server 2010 のエージェント サポート

CA ARCserve Backup Agent for Microsoft Exchange Server では、データベース レベルとドキュメント レベルのバックアップとリストアが可能です。

Exchange Server 2010 システム上で、データベース レベルのバックアップとリストアを使用して以下を行うことができます。

- 惨事復旧シナリオでシステムをリストアします。
- データベース レベルで Exchange Server システムをバックアップします。
- スタンドアロン サーバから、メールボックス データベースまたはパブリック データベースをバックアップおよびリストアします。
- Exchange データベース可用性グループ (DAG) から、メールボックス データベースまたはパブリック フォルダ データベースをバックアップおよびリストアします。
- 元の場所または別の場所にリストアします。

ドキュメント レベルのバックアップとリストアを使用して以下を行うことができます。

- フォルダ レベルのバックアップとメッセージ レベルのリストアを実行できます。ドキュメント レベルのバックアップではバックアップ中に高度なフィルタリングを使用でき、高度な設定オプションが用意されています。
- さらに、メッセージング シングル インスタンス ストレージやマルチスレッドをサポートし、最小単位のリストアを可能にすることで、最大限のパフォーマンスと柔軟性を引き出します。
- 監査、マイグレーション、廃棄、エージングといった多くの管理タスクを簡素化できます。
- 投稿、仕事、メモ、履歴、電子メール メッセージ、イベント、予定、会議出席依頼、連絡先など、多くのメッセージ オブジェクトをバックアップできます。
- バックアップ マネージャを使用して、Exchange Server のバックアップをスケジュールできます。

Microsoft SharePoint 2010 のエージェント サポート

CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server が、Microsoft SharePoint 2010 (リリース候補版) をサポートするようになりました。エージェントはさらに Microsoft SharePoint 2010 フェールオーバー データベース機能もサポートします。

ストレージ リソース管理 (SRM) 拡張機能

このリリースに含まれる新しいレポートを使用すれば、環境の管理が容易になり、問題の発生を事前に防ぐことができます。たとえば、システム ディスク使用率のトレンド分析は、将来必要となるディスク容量の管理および計画に役立てることができます。PKI (Performance Key Indicator) を使用して、CPU、メモリ、ディスクなどの重要なリソースのしきい値を設定し、しきい値に達した場合にアラートを送信させることができます。また、CA ARCserve Backup ライセンスを使用するすべてのシステムが含まれるレポートを表示し、効率よくライセンスを管理し、コストを下げるすることができます。

raw バックアップおよびリストア

CA ARCserve Backup に raw バックアップおよびリストアの機能が組み込まれ、ファイル システムの有無にかかわらず、物理ディスクおよび物理ボリュームをバックアップおよびリストアできるようになりました。この機能を使用すると、Oracle データベース スナップショット、Windows 以外のファイル システム パーティション、名前の付いていないパーティションまたはボリューム、およびクライアント システムにディスクとしてマウントされた任意のスナップショットを、バックアップおよびリストアできます。

Dashboard

このセクションでは Global Dashboard と、新しい Dashboard レポートについて説明します。

Global Dashboard

Global Dashboard は、単一のネットワーク ベース コンソールを提供するユーザ インターフェイス ツールです。この単一コンソールから、企業内の複数の CA ARCserve Backup ドメインの Dashboard 情報をモニタおよびレポートできます。Global Dashboard では、CA ARCserve Backup Dashboard 機能が拡張され、メイン オフィスおよびリモート オフィスにある複数の CA ARCserve Backup ドメインの Dashboard 情報を、一元化された場所から素早く簡単に確認できます。Global Dashboard によって提供される、この一元化されたモニタリング機能によって、CA ARCserve Backup および SRM 環境全体のパフォーマンスと運用に関する情報収集力が向上します。

新規 Dashboard レポート

CA ARCserve Backup Dashboard は、バックアップ インフラストラクチャおよびストレージ リソース管理 (SRM) 環境のスナップショット概要を提供するユーザ インターフェース ツールです。このリリースでは、以下の新しい Dashboard レポートが提供されます。

アプリケーション データ トレンド レポート

SRM レポートの 1 つで、各種類のアプリケーションの使用データ サイズを履歴ビューに表示し、それらのアプリケーションの増加トレンドを予測します。このレポートに基づいて、将来必要なディスク スペースを予想し、準備することができます。

クライアント ノード ソフトウェア レポート

SRM レポートの 1 つで、CA ARCserve Backup で保護できるアプリケーションが存在するノード数と保護ステータスを表示します。

未変更ファイル数の多い上位ノード レポート

SRM レポートの 1 つで、指定日数内で未変更ファイル数または未変更ファイルサイズが最大の上位ノードを指定した数だけリストします。

保護サイズ合計レポート

バックアップ ドメイン内で CA ARCserve Backup が保護するデータの合計サイズを表示します。バックアップ環境の容量管理およびリソース計画に役立ちます。

使用率レポート

このリリースでは、以下の新規の使用率レポートが提供されます。

CPU 使用率レポート

指定期間内のモニタ対象サーバの CPU 使用率をグラフ形式で表示します。

ディスク パフォーマンス レポート

指定期間内のモニタ対象サーバのスループット(単位:KB/秒)をグラフ形式で表示します。

メモリ使用率レポート

指定期間内のモニタ対象サーバのメモリ使用率をグラフ形式で表示します。

ネットワーク使用率レポート

指定期間内のモニタ対象サーバのネットワーク(NIC)使用率をグラフ形式で表示します。

ボリューム トレンド レポート

SRM レポートの 1 つで、各ボリュームの使用データ サイズを履歴ビューに表示し、それらのボリュームの増加トレンドを予測します。このレポートに基づいて、将来必要なボリュームを予想し、準備することができます。

CA ARCserve Patch Manager 機能と CA ARCserve Backup の統合

CA ARCserve Backup のこのリリースは、CA ARCserve Backup Patch Manager (Patch Manager)の機能を統合しました。Patch Manager は、新しい CA ARCserve Backup パッチの検索、ダウンロード、およびインストールを容易にします。Patch Manager は、最新のパッチを使用してバックアップ環境を最新の状態に維持するための高速、簡単、そして信頼できるソリューションを提供します。Patch Manager は、パッチ管理プロセスを自動化し、重要な製品の更新を手動でインストールする手間を省きます。また、Patch Manager は、セキュリティ上の脆弱性からバックアップ環境を保護する役割も果たします。

IBM Informix 11.5 のエージェント サポート

CA ARCserve BackupAgent for IBM Informix は IBM Informix 11.5 をサポートするようになりました。

Lotus Domino Server 8.5 のエージェント サポート

CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino では、Lotus Domino® Server 8.5 および Lotus Domino® Server 8.5.1 がサポートされます。これには、Domino Attachment and Object Service (DAOS)機能も含まれます。この機能では、同じ添付ファイルの複数のコピーを別のリポジトリに 1 度だけ保存し、それらを参照するようにします。

Microsoft SQL Server 2008 のエージェント サポート

CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server で、Microsoft SQL Server 2008、Microsoft SQL Server 2008 R2 およびそれ以降のバージョンのバックアップ圧縮がサポートされるようになりました。

[エージェント オプション]、または[グローバル オプション]の[エージェント オプション]タブで[SQL Server によるバックアップ圧縮]を有効化すると、SQL Server データベース バックアップ圧縮設定が使用され、より少ないセッション数での速いバックアップが可能になります。

セントラル ジョブ キュー管理

ジョブ ステータス マネージャを使用して、1 つまたは複数の CA ARCserve Backup ドメインを管理できるようになりました。ジョブ ステータス マネージャを使用すると、組織内のすべての CA ARCserve Backup ドメインに関係しているジョブ キューをモニタおよび管理できます。ジョブ ステータス マネージャを使用して、ドメインを表示、追加、削除できます。

一元化されたライセンス登録

このリリースでは、Agent for Open Files および Agent for Lotus Domino のライセンス登録が一元化され、特定環境のすべてのライセンスを、CA ARCserve Backup プライマリ サーバのような単一の場所から適用および管理できるようになりました。また、このリリースにアップグレードする場合、プライマリ サーバまたはスタンドアロン サーバに新しいアップグレード キーとエージェント用の古いライセンス キーの両方を入力する必要があります。

Client Agent が仮想マシンにインストールされている場合、Client Agent for Windows または Client Agent for Virtual Machines のライセンスがこのノードに適用できます。Client Agent が仮想マシンにインストールされている場合、猶予期間は 61 日間です。しかし、Client Agent が物理マシンにインストールされている場合、猶予期間は 31 日間です。

Agent for Open Files のライセンス猶予期間は Client Agent と同じです。

VSS ライタは、CA ARCserve Backup Agent for Open Files がインストールまたはライセンスされない場合でも、猶予期間内であると表示されます。

CA Antivirus メンテナンスの機能拡張

CA ARCserve Backup ウイルス スキャン エンジンが機能拡張され、データ保護に CA Antivirus 8.1 が使用されるようになりました。

重要: CA ARCserve Backup に組み込まれているのは、ウイルスのスキャンおよび修復用のコンポーネントのみです。CA Antivirus の完全版はインストールされません。

カタログ DB の機能拡張

CA ARCserve Backup カタログ DB が機能拡張され、SQL データベースのサイズ(特に、データベースとして SQL Express を使用している場合の 4GB の制限)と、バックアップ成功後の参照に要する時間が減少しました。

デデブリケーション拡張機能

このリリースでは、以下のようにデデブリケーション機能が拡張されました。

- CA ARCserve Backup は、Oracle RMAN バックアップのグローバル デデブリケーションをサポートします。
- 別々のホストにデータとインデックスを持つデデブリケーション デバイスを作成できるようになりました。
- CA ARCserve Backup では、断片化を軽減するために、最初のフル バックアップの際にディスク容量を 1 GB ずつ事前割り当てしますが、最後の 1 GB のデータチャンクは切り捨てられ、データ ファイルのサイズはデデブリケーションが完了した後の実際の圧縮セッション サイズとなります。

注： その後のバックアップ用の事前割り当てメカニズムは変更されていません。

グローバル再利用セットのデフォルトでの有効化

このリリースでは、テープ エンジンの一般設定ダイアログ ボックスの[グローバル再利用セットを使用する]がデフォルトで有効になっているため、メディア プールでテープが切れた場合にジョブが失敗するのを防ぐことができます。

Infrastructure Visualization

CA ARCserve Backup では、お使いの CA ARCserve Backup 環境が視覚的に表現され、バックアップ ステータスや、サーバ、ノード、デバイス間の関係を素早く確認できます。

CA ARCserve BackupInfrastructure Visualization では、組織図に似た階層形式で各 CA ARCserve Backup サーバが表示されます。プライマリ サーバとメンバ サーバの両方を表示できます。ミニマップ機能は、現在のビューの縮小版として使用でき、ユーザがズーム、パン、部分的な強調表示などを行うことができます。ノードまたは層のフィルタ、および要素のグループ化によって、表示をカスタマイズできます。さらに、単一の物理ページに出力が収まるように調整して、ビューの内容を印刷できます。ノードを選択して、Dashboard レポートにアクセスできます。サーバまたはノードをクリックすると、詳細と最新のバックアップ ステータスを表示できます。

ノードが複数のサーバによってバックアップされている場合でも、ビューは常に最新のバックアップ ステータスとサーバを表示します。共有デバイスは、初期状態ではプライマリ サーバの下にのみ表示されます。他のすべての CA ARCserve Backup サーバがオンラインになると、デバイスは SAN (Storage Area Network) 内に表示されます。SAN デバイスはデバイス アイコンと共に SAN タグで表示されます。

SKM(Secure Key Management)との統合

HP、Quantum などのさまざまなデバイス メーカーの暗号鍵管理機能をサポートするため、CA ARCserve Backup は SKM(Secure Key Manager)テクノロジーとの統合をサポートするようになりました。

メークアップ ジョブ

このリリースでは、メークアップ ジョブが機能拡張され、バックアップ ジョブで CA ARCserve データベースが保護されるようになりました。バックアップ ジョブに含まれる CA ARCserve データベースがバックアップされなかった場合、その CA ARCserve データベースをバックアップジョブに含めるために、メークアップ ジョブが生成されます。

x64 プラットフォーム上での NLO/VLO サポート

このリリースでは、x64 ビットプラットフォーム上で NLO/VLO がサポートされます。したがって、x64 プラットフォーム上で仮想ライブラリおよび StorageTek ACSLS を設定することができます。

物理マシンから Hyper-V マシンへの惨事復旧のサポート

このリリースでは、Disaster Recovery Option による物理マシンの Hyper-V VM への復旧がサポートされています。詳細については、CA ARCserve Backup サポート (https://support.ca.com/phpdocs/0/4536/support/arcserve_support.html) にある「Disaster Recovery Option ユーザ ガイド」を参照してください。

CA ARCserve データベース回復ウィザードを使用した CA ARCserve Backup データベースの回復

この CA ARCserve Backup のリリースに含まれる新しい ARCserve データベース回復ウィザードでは、障害が発生した CA ARCserve Backup データベースが、そのデータベースを使用している CA ARCserve Backup ドメインによってバックアップされている場合、データベースを回復できます。このウィザードは、自己プロテクト ユーティリティであり、最近のフル バックアップ、増分バックアップ、または差分バックアップからデータベースを回復できます。また、バックアップ サーバに接続されたデバイスに保存されているフル バックアップ セッションからデータベースを回復できます。

さらに、CA ARCserve データベース回復ウィザードを使用して、同じドメイン内のバックアップ サーバを使用してバックアップされた CA ARCserve Backup データベースをリストアできます。

CA ARCserve Backup デフォルト データベースとしての Microsoft SQL Server 2008 Express Edition

このリリースでは、Microsoft SQL Server 2008 Express Edition が CA ARCserve Backup のデフォルトのデータベースです。スタンドアロン サーバから構成される Microsoft SQL Server 2008 Express Edition、またはプライマリ サーバおよび複数のメンバ サーバから構成される Microsoft SQL Server 2008 Express Edition を展開できます。

注: Microsoft SQL Server 2005 Express Edition は、このリリースで CA ARCserve Backup データベースとしてサポートされなくなりました。前のリリースからこのリリースにアップグレードする場合、Microsoft SQL Server 2008 Express Edition がインストールされます。

ディスクおよびテープ ステージング バックアップの週単位のマイグレーション ポリシー

このリリースでは、ローテーション ジョブおよび GFS ローテーション ジョブの両方に対して、日単位のバックアップ セッションの代わりに、週単位のフル バックアップ セッションのコピー(マイグレーション)ポリシーを指定できます。週 7 日の週単位のフル バックアップでは、CA ARCserve Backup は土曜日(フル)バックアップ セッションをマイグレートします。7 日の週単位の増分/差分バックアップ、日曜日のフル バックアップでは、CA ARCserve Backup は日曜日(フル)バックアップ セッションにマイグレートし、5 日単位のローテーションでは、CA ARCserve Backup は金曜日(フル)バックアップ セッションにマイグレートします。

第 2 章：利便性の向上

この章では、製品の利便性の向上について説明します。ユーザ インターフェースの変更、ライセンス登録の変更、セットアップと展開の変更、およびドキュメントの変更などが含まれます。また、この章には、製品から削除された機能の一覧も含まれます。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA ARCserve Backup マネージャの機能拡張](#) (17 ページ)

[診断に関する拡張機能](#) (20 ページ)

[CA ARCserve D2D との統合](#) (21 ページ)

[ライセンス登録](#) (22 ページ)

[セットアップと展開](#) (23 ページ)

[静的バックアップ](#) (23 ページ)

[マニュアルの変更点](#) (24 ページ)

CA ARCserve Backup マネージャの機能拡張

このリリースでは、マネージャ コンソールが機能拡張され、バックアップ ソース選択のためのマシンの検索、バックアップ ジョブのサブミットの設定、デバイスの設定などのタスクが簡略化されました。マネージャの拡張機能は以下のとおりです。

- セントラル エージェント管理
- データベース パス
- ディスク ベース デバイス環境設定
- 動的にパッケージされるジョブからの項目の除外
- グループ ビュー
- ウィザード形式のバックアップ マネージャ

セントラル エージェント管理

CA ARCserve Backup にセントラル エージェント管理と呼ばれるユーティリティが追加されました。このユーティリティを使用すると、セントラル データベース サーバからすべてのエージェントを管理できます。セントラル エージェント管理はエージェント マシンの管理に使用し、エージェント ログおよびイベント ログの表示および削除、1 つ以上のエージェントのデバッグ レベル設定レジストリの設定、および、エージェント オプションの設定 (Client Agent と Agent for SQL Server のみ)を行うことができます。また、セントラル エージェント管理を使用して、通常はバックアップ マネージャで実行する基本的なノード管理タスクを実行することも可能です。バックアップ マネージャを開かずに、ノードのセキュリティ情報の追加や修正、エージェントの追加、修正、削除を実行できます。さらに、セントラル エージェント管理からノード層の設定や Agent Deployment を実行できます。

注: セントラル エージェント管理は、現在、Client Agent、Agent for Open Files、Agent for Microsoft SQL Server、Agent for Microsoft Exchange Server、Agent for Microsoft SharePoint Server および Agent for Oracle をサポートしています。

データベース パス

バックアップ マネージャ、リストア マネージャ、デバイス マネージャなどの CA ARCserve Backup マネージャのディレクトリ ツリーで、UNIX/Linux システム、および Oracle データベース (RMAN モードのみに適用) の大文字と小文字が区別されたパスがサポートされるようになりました。さらに、大文字と小文字を区別した照合による、Microsoft SQL Server インスタンス上へのインストールがサポートされるようになりました。

ディスク ベース デバイス環境設定

この CA ARCserve Backup のリリースでは、統合されたディスク ベースのデバイス環境設定画面が用意されています。この画面で、ファイル システムまたはデデュプリケーション デバイスのいずれかの種類を一覧からクリックし、[追加]をクリックすると、ファイル システムまたはデデュプリケーション デバイスを追加できます。また、グループの種類をクリックすると、同じ 1 つの画面でデバイス グループを設定できます。たとえば、[FSD グループ]をクリックすると、グループ内のすべてのファイル システム デバイスが一覧表示されます。グループへのデバイスの割り当てやグループからのデバイスの削除、または、グループ名の変更やグループの削除が可能です。

[ディスク ベース グループ プロパティの環境設定]画面では、リストから適切なグループの種類を選択し、グループのプロパティを設定できます。あるデバイス種類の作成から別のデバイス種類の作成への切り替えは、画面を閉じずに実行できるようになりました。

動的にパッケージされるジョブからの項目の除外

バックアップ ジョブを動的にパッケージする場合、バックアップしたくないノードまたはディスクを除外できます。たとえば、カスタマイズされたソース グループを動的にバックアップすることを選択した場合、あるサーバがカスタマイズされた別のソース グループの一部であるときには、カスタマイズされたソース グループの一方のサーバをバックアップから除外できます。

グループ ビュー

グループ ビューを使用すると、バックアップ ソースを簡単に見つけることができます。バックアップ ソースは以下の方法で参照できます。

アプリケーション グループ

CA ARCserve Backup エージェントの種類別にマシンを分類および参照します。

カスタム グループ

カスタム グループを設定し、指定した基準に基づいてマシンをグループに追加します。必要に応じて、カスタム グループの名前変更、削除、およびグループに含まれるサーバの変更が可能です。

フィルタ

サーバ名、エージェントの種類、およびサブネットによってソース マシンを検索します。ノード フィルタでは、ノード名のパターン、またはノード サブネットのパターンによる検索が可能です。

ウィザード形式のバックアップ マネージャ

CA ARCserve Backup のバックアップ マネージャが機能拡張され、タブの指示に従って操作するだけで、バックアップ ジョブを設定できるようになりました。

ステージングを有効化して標準バックアップ、デデュプリケーション バックアップ、または UNIX/Linux Data Mover バックアップを実行すると、バックアップ マネージャに、[ステージングの場所]と[マイグレーション ポリシー]の 2 つのタブが追加で表示されます。

ステージングの場所

一時的な保存場所を選択します。通常はディスクです。

マイグレーション ポリシー

標準バックアップを行う場合は、コピー ポリシーを指定し、デデュプリケーション バックアップを行う場合は、コピー ポリシーとステージング デバイスのパージ ポリシーを指定します。

バックアップ マネージャの[スタート]タブに UNIX/Linux Data Mover 用の新しいバックアップの種類が含まれるようになりました。このバックアップ オプションでは、単一のライブラリを共有する複数の Data Mover を 1 つのバックアップ ジョブに統合できます。

診断に関する拡張機能

このリリースには、診断ユーティリティの以下の拡張機能が含まれます。

- Log フォルダ下にすべての LOG ファイルを製品ログとして収集します。Log フォルダは CA ARCserve Backup のインストール パスにあります。
- 新しい arcsysinfo.log を、プライマリ サーバ上の製品ログとして生成します。
- プライマリ サーバの情報を収集して表示します。この情報には、データベースが DB SQL または SQLE、ローカルまたはリモートのいずれであるか、ODBC 接続または RPC 接続のどちらを使用しているか、メンバ サーバの数などが含まれます。
- テープ ライブラリおよびテープ ドライブ、デデュプリケーションおよび FSD デバイス、ステージング グループおよびデデュプリケーション グループの情報を収集して表示します。

CA ARCserve D2D との統合

このリリースでは、CA ARCserve Backup マネージャを使用して、CA ARCserve D2D のユーザ インターフェイスをローカルまたはリモート マシンで起動できます。また CA ARCserve Backup では、CA ARCserve D2D のバックアップ データをアプリケーションの整合性が保たれた状態で、テープまたはディスクにバックアップできます。

ライセンス登録

CA ARCserve Backup では、Agent for Open Files および Agent for Lotus Domino のライセンス スキーマが機能拡張され、特定環境のエージェント ライセンスを、CA ARCserve Backup プライマリ サーバのような単一の場所から適用および管理できるようになりました。CA ARCserve Backup UNIX/Linux Data Mover も CA ARCserve Backup プライマリ サーバからライセンスされます。

Global Dashboard は別途ライセンスされ、Enterprise Module ライセンスを必要としません。

物理ディスクとボリュームの raw バックアップとリストアを実行するためには、CA ARCserve Backup Enterprise Module のライセンスを取得する必要があります。

新しい保護サイズ合計ダッシュボード レポートを使用して、容量ベースのライセンス モデルのバックアップ環境に対する容量管理およびリソース計画を実行することができるようになりました。

このリリースでは、以前のリリースで Enterprise Module の一部だった暗号化、マルチプレキシング、パスワード管理、およびユーザ プロファイルなどのコンポーネントがベース製品で無料で利用できるようになりました。さらに、2 ストリームまでのディスク ステージングおよびテープ ステージングについては、Enterprise Module のライセンスがなくても、ベース製品を使用して実行できるようになりました。

さらに、以下のスイートは、モジュールに改名されました。

- CA ARCserve Backup r15.0 File Server Suite は **CA ARCserve Backup r15.0 for Windows Essentials Module** という名前に変更されました。
注：以前のリリースの File Server Suite (ベース) および File Server Suite (クライアント) は、単一の Windows Essentials Module に統合されました。
- CA ARCserve Backup r15.0 File Server Suite for Virtual Machines は **CA ARCserve Backup r15.0 Guest Based Virtual Machines Agent Bundle** という名前に変更されました。
- CA ARCserve Backup r15.0 Email Server Suite は **CA ARCserve Backup r15.0 for Windows Advanced Module** という名前に変更されました。
- CA ARCserve Backup r15.0 Database Server Suite は **CA ARCserve Backup r15.0 for Windows Standard Module** という名前に変更されました。
- CA ARCserve Backup r15.0 Application Server Suite は **CA ARCserve Backup r15.0 for Windows Enterprise Plus Module** という名前に変更されました。

セットアップと展開

CA ARCserve Backup のセットアップおよび展開は、以下のように機能拡張されました。

- CA ARCserve コンソールのインストールを選択した場合、Global Dashboard が有効化されるようになりました。サーバがプライマリかスタンドアロンのいずれかである場合、CA ARCserve Backup インストール プロセスの最後に Global Dashboard の設定ユーティリティが自動的に起動されます。
- Agent Deployment ツールで、Agent for Microsoft Exchange Server のアップグレード(自動アップグレード モード)および新規インストール(カスタム インストールモード)がサポートされるようになりました。
- すべてのエージェントのインストール時に CA ディスカバリ サービスが実行されるようになりました。
- Windows の[コントロール パネル]の[プログラムの追加と削除]に、CA ARCserve Backup アンインストール用の単一のエントリが表示されるようになりました。CA ARCserve Backup のアンインストールを選択すると、[CA ARCserve Backup アプリケーションの削除]ダイアログ ボックスが表示され、アンインストールする複数のコンポーネントを選択できます。CA ARCserve Backup をシステムから完全にアンインストールするには、[CA ARCserve Backup アプリケーションの削除]ダイアログ ボックスに表示されるすべての CA ARCserve Backup コンポーネントを削除してください。たとえば、CA ARCserve Backup Client Agent for Windows、CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server、CA ARCserve Backup Diagnostic Utilities などをアンインストールする必要があります。

静的バックアップ

静的バックアップを実行して、ジョブの作成時に選択したソース グループまたはサーバに所属するサーバ、ノード、ボリュームのみをバックアップできるようになりました。静的バックアップ ジョブの作成後にソース グループにサーバを、またはサーバにノードまたはボリュームを追加しても、ジョブの実行時には無視されます。

マニュアルの変更点

このリリースのドキュメント セットには以下の新しいマニュアルが含まれます。

UNIX/Linux Data Mover ユーザ ガイド

CA ARCserve BackupUNIX/Linux Data Mover を使用した、UNIX/Linux のファイル システム データおよび Oracle データの保護方法が記載されています。このマニュアルでは、UNIX/Linux Data Mover のアーキテクチャおよびインストールについて説明しています。

第 3 章： 解決されたユーザ リクエスト

このセクションでは、このリリースで対処済みの機能拡張要求や問題について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA ARCserve Backup 読み取り専用ドメイン コントローラ上のインストール サポート](#)
(25 ページ)

[メディアの比較操作](#) (25 ページ)

[メール スロットからのテープのインポート](#) (25 ページ)

CA ARCserve Backup 読み取り専用ドメイン コントローラ上のインストール サポート

読み取り専用ドメイン コントローラでは、プライマリ サーバまたはスタンドアロン サーバとして CA ARCserve Backup をインストールし、リモートの CA ARCserve データベースとして使用できるようになりました。

メディアの比較操作

メディア比較操作には、[ファイル アクセス日時を保存する]という新しいオプションが含まれるようになりました。このおかげで、比較ジョブを実行した際にファイルが更新または変更されていないことを確認できるようにするために、元のファイルアクセス日時を保存できます。

メール スロットからのテープのインポート

ca_devmgr コマンド ライン ユーティリティでは、ライブラリのメール スロットで検出されたテープを、指定したライブラリで最初に利用できるストレージ スロットにインポートできる、新しい `-importall` 引数が提供されます。このコマンドは、特定のストレージ スロットに移動させずに、テープをメール スロットからインポートする場合に使用できます。

第 4 章：サポートされない機能

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[このリリースでサポートされない機能 \(27 ページ\)](#)

このリリースでサポートされない機能

このリリースでは、以下の機能はサポートされません。

Agent for Microsoft SharePoint 2003

このリリースでは、Agent for Microsoft SharePoint 2003 はサポートされません。このリリースにアップグレードする際、Agent for Microsoft SharePoint 2003 をアンインストールするかどうかを確認するメッセージが表示されます。

Agent for Oracle

このリリースでは、Solaris 9 x86 システム上の Agent for Oracle はサポートされません。

CA ARCserve Backup データベース

このリリースでは、SQL 7、SQL 2005 Express Edition および SQL 2000 MSDE (Microsoft Desktop Engine) は CA ARCserve Backup データベースとしてサポートされません。

BrightStor ARCserve Backup for Laptops & Desktops との統合

このリリースでは、CA ARCserve Backup は BrightStor ARCserve Backup for Laptops & Desktops と統合されません。したがって、ラップトップとデスクトップのソース データで構成されたジョブはすべてスキップされます。

バックアップ ウィザードとリストア ウィザード

このリリースには、バックアップ ウィザードとリストア ウィザードは含まれません。これは、バックアップ マネージャが機能拡張され、ウィザードと同様の機能が含まれているためです。

容量ベース ライセンス ユーティリティ

このリリースには、容量ベース ライセンス ユーティリティは含まれません。このユーティリティは、保護サイズ合計ダッシュボード レポートに置き換えられました。

IBM Informix Dynamic Server

CA ARCserve Backup のこのリリースでは、IBM Informix Dynamic Server 9.4 はサポートされません。

Unicenter Software Delivery を使用したインストール

Unicenter Software Delivery を使用して CA ARCserve Backup サーバ コンポーネントとオプションをインストールすることはできません。ただし、CA ARCserve Backup エージェントは、Unicenter Software Delivery を使用してインストールできます。

SQL 2000 MSDE

このリリースでは、Agent for Microsoft SQL Server は SQL 2000 MSDE データベースのバックアップおよびリストアをサポートしません。

BrightStor ARCserve Backup r9.x または BrightStor Enterprise Backup r10.x からのアップグレード

このリリースでは、BrightStor ARCserve Backup r9.x および BrightStor Enterprise Backup r10.x をこのリリースにアップグレードすることはできません。CA ARCserve Backup r12.5 GA リリースにアップグレードした後、CA ARCserve Backup r12.5 からこのリリースにアップグレードする必要があります。

UNIX システム

このリリースでは、HP UX 11.22 IA64 での UNIX エージェントのインストールはサポートされません。

Windows 2000 サポート

このリリースでは、Windows 2000 Server システムでの CA ARCserve Backup サーバ コンポーネントのインストールはサポートされません。ただし、CA ARCserve Backup Client Agent for Windows を使用して、Windows 2000 Server システムを保護できます。

Windows XP サポート

このリリースでは、Windows XP システムでの CA ARCserve Backup サーバ コンポーネントのインストールはサポートされません。ただし、CA ARCserve Backup Client Agent for Windows を使用して、Windows XP システムを保護できます。